

・MERS(中東呼吸器症候群)の流行

韓国では5月中旬からMERSの流行が発生していましたが、7月初旬以降、新たな患者発生はみられていません。今回の韓国での流行による患者数は186人で、うち36人が死亡しました(WHO GAR 2015-7/21)。このまま新しい患者の発生がなければ、8月初旬には流行の終息が発表される予定です。

一方、中東のサウジアラビアではMERSの流行が続いており、最近1カ月で12人の患者が確認されました(WHO GAR 2015-7/3, 24)。サウジアラビアでは今年になり200人以上の患者が報告されていますが、このうちの44人は同国東部にあるHofufの医療機関での集団感染によるものです(国立感染症研究所 2015-7/17)。サウジアラビアなど中東諸国では医療機関内での感染とともに、このウイルスを保有するラクダからの感染も発生しています。現地に滞在する際はラクダに接触しないようにしましょう。

・中国での鳥インフルエンザ H7N9 型の流行

5月下旬から6月中旬にかけて中国で鳥インフルエンザ H7N9 型の患者が5人確認されました。このうち3人が死亡しています(WHO GAR 2015-7/18)。中国では昨年11月から第3波の流行が発生しており、患者数は200人以上にのぼっています。患者発生の多い地域は南部の広東省、浙江省、福建省などですが、こうした地域では生きたニワトリの販売されている市場などに立ち入らないようにしましょう。

・東南アジアでのデング熱流行

東南アジア諸国は雨季を迎えており、デング熱の患者数が増加傾向にあります(WHO 西太平洋事務局 2015-7/1)。今年はマレーシアやベトナムで昨年よりも患者数が多くなっています。また、タイ南部でも患者数が増加している模様です(英国 Fit For Travel 2015-6/25)。

・アジアの熱帯地域で季節性インフルエンザが流行

7月になりシンガポール、香港などで季節性インフルエンザの流行がみられています(WHO Influenza Update 2015-7/14)。流行しているウイルスの種類はA香港型(H3N2)が中心です。また南半球のオーストラリアやニュージーランドでもインフルエンザが流行レベルに入っています。こうした地域に滞在する際には、手洗いや“うがい”などを心がけてください。

・西アフリカでのエボラ熱流行

西アフリカのエボラ熱流行は鎮静化傾向にはありますが、ギニア、シエラレオネでは7月も患者の発生が続いています。最近1か月間では、ギニアで65人、シエラレオネで30人の患者が確認されま

した(WHO GAR 2015-7/1 8, 15, 22.)。また、リベリアでは5月に流行終息が宣言されていましたが、6月下旬以降、6人の患者発生が報告されています。

ギニア、シエラレオネについては現在も外務省から渡航自粛勧告が出されており、不要不急の渡航は避ける必要があります(外務省海外安全ホームページ 2015-7/10)。

#### ・黄熱ワクチンの追加接種が不要に

黄熱ワクチンは接種してから10年間有効とされており、その接種証明書(イエローカード)の有効期間もWHOにより10年と規定されています。しかし、米国CDCは黄熱ワクチン接種者の92%が10年以上免疫を保持するとのデータを発表し、このワクチンの追加接種は必要ないとの見解を示しました(Morbidity and Mortality Weekly Report 2015-6/19)。WHOも2016年6月までに国際保健規則(IHR)の改訂を行い、イエローカードの有効期間に関する規定を撤廃する予定です。

<http://www.who.int/ith/updates/20140605/en/>